

# 特別支援教育理解啓発推進事業 リーフレット



共生社会の実現を

目指して



東京都西部学校経営支援センター

## 共生社会の実現に向けて

### 「共生社会」とは？

- 障害者等が、参加・貢献できる社会
- 誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う社会
- 人々の多様な在り方を相互に認め合える**全員参加型**の社会

文部科学省HPより抜粋 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/attach/1325884.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/attach/1325884.htm)



## 共生社会の実現に向けた東京都教育委員会の考え方・取組

### 「東京都特別支援教育推進計画」

- ・「東京都特別支援教育推進計画（第二期）」（平成16年度から 東京都教育委員会）

基本理念のポイント： 「共生社会の実現」「障害者の自立と社会参加」



### 目指す将来像



「子供たちが障害の有無に関わらず、交流活動を通じ、相互理解・尊重し合う」

東京都特別支援教育推進計画（第二期）・第一次実施計画（平成29年東京都教育委員会）より抜粋

[https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/special\\_needs\\_school/special\\_needs\\_education.html](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/special_needs_school/special_needs_education.html)

## 共生社会の実現に向けた多摩地区都立学校の取組

### ① 特別支援教育理解啓発推進事業

（多摩地区都立学校教育フェア「西風（にし）」）

2ページで紹介します。



### ② 都立学校間の交流活動

（これまでの交流活動事例）

3ページで紹介します。



# ①特別支援教育理解啓発推進事業 (多摩地区都立学校教育フェア「西風(にし)」)

共生社会の実現を目指し、西部学校経営支援センターと地域が連携し、特別支援学校の教育活動の成果を発表し、広く都民に障害者への理解を促す機会である。

①特別支援学校の作業製品や高等学校の製品販売



②パラスポーツ体験活動



③特別支援学校の児童・生徒と高等学校等の生徒による共同舞台発表



④特別支援学校の幼児・児童・生徒の作品や教材の展示



## 教育フェア「西風(にし)」のあゆみ



マスコットキャラクター「ニッシー」  
町田工業高校生徒の作品

ロゴマーク  
八王子桑志高校生徒の作品



- 平成 18 年度 特別支援学校の作業製品販売促進のため、立川市錦町にあった旧多摩教育センターでフリマ「西風(にし)」としてスタート
- 平成 22 年度 教育フェア「西風(にし)」の名称に変更
- 平成 24 年度 都民へ広く周知するため、多摩教育センターの前庭での販売実施
- 平成 25 年度 特別支援学校と高等学校(各6校)共同の舞台発表等コラボレーションが充実
- 平成 29 年度 国立大学法人東京学芸大学で開催
- 平成 31 年度 都立特別支援学校を会場に開催、ロゴマーク・マスコットキャラクター決定

## ② 都立学校間の交流活動（これまでの交流活動事例）

### 「ダンスを通じた交流」

都立高校の生徒が特別支援学校の生徒と一緒に踊ることができる振付を考え、共に練習しました。練習の成果を文化祭等で披露しました。



＜都立高校生の声＞ 「どうしたら一緒にダンスができるかを考え、交流を深めました。障害はコミュニケーション上の壁にならないことを学びました。

### 「ボッチャを通じた交流」

都立工業高校の生徒が肢体不自由のある児童・生徒でもボールを投げやすい器具を製作・改良し、共にゲームを通して交流しました。



＜都立高校生の声＞ 扱いやすい器具にするための工夫を考えながら交流したことで、障害のある人でも、できることがたくさんあることを知りました。

### 「行事を通じた交流」

都立高校の生徒が、特別支援学校のイベントの運営に協力し、その後、都立高校の文化祭で特別支援学校の生徒が和太鼓演奏を発表しました。



＜都立高校生の声＞ 障害に関係なく、人が交流を深める中で、様々なコミュニケーションの方法があることを知りました。

## これからの交流活動

学校では、感染症拡大防止のための様々な工夫や取組を行っています。

感染症拡大防止のための対策に基づき、「幼児・児童・生徒の健やかな学びの保障と両立を図り、学校の「新しい日常」を定着させていく必要があります。」

(東京都教育委員会「新型コロナウイルス感染症対策と学校運営に関するガイドライン【都立学校】」より)

特別支援学校と高等学校等との交流活動も、新しい日常において

様々な工夫をしながら継続していきましょう。



## 新しい交流事例「オンラインを活用した交流」

工業高校の授業の一環で、障害者や高齢者にとって使いやすい用品の製作を試みました。生徒たちは、オンラインで特別支援学校の児童・生徒の声を聞き、一人一人のサイズや使用感に応じた整理棚や本棚が完成しました。特別支援学校の児童・生徒は交流をとおして完成品だけでなく製作過程にも興味をもち、大切に使う気持ちが高まりました。



特に、長期入院中で病院内訪問教育を受けている児童・生徒にとって、面会も制限される状況下で実現した高校生とのオンライン交流は貴重でうれしい経験でした。工業高校の生徒にも入院中の児童・生徒の喜びが伝わり、ものづくりを通して社会の人々の役に立つ意味を、深く感じることができました。

新しい日常の交流活動の定着を

西部学校経営支援センターは応援します。



表紙の写真は、都立特別支援学校の生徒と都立高校の生徒が共同して育てた小松菜の芽です。

共生社会の実現に向けて、各学校の取組によってまかれた種が、芽を出し、豊かに育つように、今後も様々な取組を進めていきます。

特別支援教育理解啓発推進リーフレット  
共生社会の実現を目指して

令和2年12月24日

問合せ先 東京都西部学校経営支援センター

電話：(042)527-6982

東京都西部学校経営支援センター支所

電話：(042)466-6091